

Title	永井好信宛福澤諭吉書翰(二)
Sub Title	
Author	河北, 展生(Kawakita, Nobuo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1952
Jtitle	史学 Vol.25, No.4 (1952. 9) ,p.103(536)- 103(536)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	餘白録
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19520900-0103

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

- (7) Ibid. s. 23. Fr. 61.
 (8) Ibid. s. 36~7. Fr. 107.
 (9) Novalis. Gesammelte Werke. V. Die Christenheit oder Europa. s. 27.
 (10) F. Meinecke. Ibid. s. 81.

永井好信宛福澤諭吉書翰 (二)

○先達中は御歸京拙宅へも御來訪被下候由之處不在にて不得拜
 眉残念此事に御座候

爾來不相替御盛之よし毎度傳承欣喜に不堪尙此上とも御勉強
 專一奉存候塾も相替事無之講堂之普請も追々進歩當中に小
 屋を上げ候様致度存居候夏來コレラに而は閉口家内一同謹慎
 用心致居候處先々昨今之處に而は大に鎮靜之標様に相成り候
 御地も同様義併し御用心は怠らざる様所祈候右御返詞まで申
 上度早々如此御座候頓首

(明治)十九年九月廿五日

諭 吉

永井好信様几下

尙以先日拜顔を得さりしは遺憾之次第尙其中には重而御出京
 之義も可有之御待申上候以上

○本月十七日之貴翰拜見仕候如來翰寒氣相増候處益々御清安奉
 拜賀過日本藝之競技會は隨分見事に有之演技者中清岡石毛杯

申は最屆強石毛は幅飛十四フート六インチニ是れまで學生之
 仲間には無き所と申事に候

塾之普請も台石は既に過候に付上煉瓦に取掛り候本年中に積
 み終り度申居候

近來徵兵令之功能も餘り著しからず私塾に入る者多くして昨
 今幼稚舎を合して六百名に相成日々英語勉強致し居候

昨日は淺草本願寺におゐてノルマントン不幸者の爲め追吊の
 大法會を催し塾よりも押出して甚た賑やかなり途中如何と案
 し候得共夫れは誠に靜肅にて漫に大聲を放ちたる者もな
 し塾風舊に異ならず御安心可被下候

ノルマントン之一條も餘りに騒々度々過るとて政府之筋にて
 も昨今は却て扣目之説あるよし其御地は根本之場所何にても
 御聞込之義も御度候得は何卒早く御報道奉願候
 右御返詞まで申上候頓首

(明治)十九年十一月廿一日

諭 吉

永井好信様机下

(河北展生記)